

# ★ ライトノベル (日常) ★

## ゆきうさぎのお品書き

既刊8巻

こみなと ゆうき  
小湊 悠貴 / 著 集英社 集英社オレンジ文庫

生きていく上で大切なことの1つが食事だと思います。

この作品は、小料理屋さんの大樹と大学生の碧を中心とした個性豊かな登場人物たちが料理を通して成長していく物語です。腹がへっては何とやら。上手く伝えられないことも料理と一緒に伝えられるかもしれません。(読みながらおなかかすきました。)

## 魔法使いのハーブティー

ありま  
有間 カオル / 著 KADOKAWA メディアワークス文庫

夏休みの間、中学生の勇希が暮らすことになった不思議なカフェ。先生と呼ばれるマスターとたくさんのハーブたちが頑なに心を癒していきます。

何かと忙しい毎日ですが、時には立ち止まって、ゆっくりするのも大切です。ホッと一息、ハーブティーなどいかがですか？



## あやし屋台なごみ亭

全4巻

しのみや  
篠宮 あすか / 著 双葉社 双葉文庫

「この屋台にはメニューがない」「だれもが行けるわけではない」「いつもあるわけではない」「店主の女性はモデル並みの美人」こんな屋台があったらみなさんは信じますか？そんな都市伝説のような屋台を中心に、物語は進みます。

浩平はひょんなことからこの屋台で働くことになり、不思議な出来事に遭遇していきます。この屋台を訪ねる人には何かしらのワケがある…。

この物語の中に出てくる食べ物は、どれも美味しそうで、食欲をそそられます。

人と美味しい食べ物は、必然的につながっているのかもしれないね。

## 京都伏見のあやし甘味帖

既刊4巻

柏 てん / 著 宝島社 宝島社文庫

この物語の主人公は、東京でバリバリ働いていたキャリアウーマンの小薄れんげという女性が主人公です。

彼女は、職場の上司に不祥事を押しつけられ、会社を辞めます。さらに、彼氏に浮気をされてしまうという悲惨な現実も加わり、傷心のまま京都へ旅に出ました。そこで出会ったのは、京菓子を愛してやまない大学生の虎太郎と人語を話す不思議な黒狐。

虎太郎と黒狐と生活をしていく中でのれんげの変化に注目です。ぜひ皆さんも手にとってみてください。